

I. 研究分野

環境経済学

II. 研究分野（英語表記）

Environmental Economics

III. 修士課程学生の履修要件

2026 年度末に修論を提出する学年（2027 年 3 月修了予定者）

この学年の指導予定はすでに複数名の申し込みを受けており、追加的な指導受入はしないか 1,2 名のみとなる。

1) 教員自身が指導可能な研究課題と研究計画の進捗状況であること。具体的には環境経済学、エネルギー経済学が対象となる。

2) 中級ミクロ経済学と中級計量経済学を M1 の時またはそれ以前に履修し単位取得していること。ただし、他の上級のミクロ・計量経済学科目で代替を認めることがある。

3) 本学の講義・環境経済学ないしは他大学での類似科目を履修し単位取得していること。また、上級環境経済学 I を受講しているとより望ましい。

2027 年度以降に修論を提出する学年（2028 年 3 月修了予定者等）

1) 教員自身が指導可能な研究課題と研究計画の進捗状況であること。具体的には環境経済学、エネルギー経済学が対象となる。

2) 中級ミクロ経済学と中級計量経済学を M1 の時またはそれ以前に履修し単位取得していることを必須とする。前学年までの他の科目での代替は認めない。

3) 本学の環境経済学を M1 終了までに履修し単位取得すること。（なお、上級環境経済学 I の単位取得も加点評価とする）

4) 2026 年 9 月 30 日までに中級ミクロ・中級計量の単位取得が確認できた後に、速やかにメールで教員に修論指導を申し込むこと。その上で行う下記の選考での合格者のみを修論指導する。指導希望者の意向があれば、M1 の秋以降から自主勉強会などを行う。修論指導は受けずに演習や自主勉強会に参加する者も認める場合がある。

IV. 選考期間および方法

2026 年度末に修論を提出する学年（2027 年 3 月修了予定者）

この学年の指導予定はすでに複数名の申し込みを受けており、追加的な指導受入はしないか 1,2 名のみとなる。

指導希望者は 2026 年 2 月 18 日（水）締切で指導希望書類一式を提出すること。

書類と場合によっては面接を経て指導が可能かを判断させていただきます。

2027 年度末以降に修論を提出する学年（2028 年 3 月以降修了予定者）

指導希望者はその年度の 9 月末日から 1 月の第 4 金曜日の期間に指導希望書類一式を提出すること。

随時、書類と面接で修論指導の可否を判断します。希望者数が教員の指導の能力キャパシティに達した場合、受け入れを早めに打ち切ることがあります。

指導希望申請の書類例：

1) それまでの学修状況がわかるファイル（修士 1 年の成績やそれ以前の成績。英語等の資格試験結果も歓迎。）

2) 研究計画書（様式は自由。大学院入試時の分量を想定している。当時から改良されていることが望ましい。）

3) 指導希望エッセー（希望する理由、修了後のキャリアの以降など。）

以上を締切までにメールに添付して教員のメールアドレスに送付すること。

V. 指導方針

環境経済学、エネルギー経済学とその隣接分野で修士論文を基本的には各自の研究関心に沿って、複数の学生を同時に指導する方針です。

博士課程に進学する希望の人に対しては、教員が研究手法・対象を指導し具体的に提案することがあります。

2026年度より、指導を希望する修士1年やそれ以外の学部生・他の教員の演習参加者を対象に環境経済学、エネルギー経済学の論文輪読の自主勉強会をする計画があります。こちらは演習とは別の時間帯に自主的に行うものです。参加希望の方は随時、横尾までメールしてください。

VI. 博士後期課程学生の履修要件

環境経済学、中級ミクロ経済学、中級計量経済学においてB以上の成績。

その上で、研究計画が教員にとって指導可能で、キャリアプランも可能性と魅力があること。また、研究計画とそれまでの成績や特に秀でた能力（英語、数学、データサイエンス、海外経験、研究経験等）の有無も評価します。

以上を含めた書類・面接で指導の可否を判断します。

博士課程進学者についてはその研究計画について教員から多くの要求や指導を行うことがあります。

VII. 共同開講者に関するメモ

VIII. 詳細リンク先 URL